

## ■ 単元名(題材名)

群読で発信！800年の時を超えた「平家物語」

## ■ 学習の流れ

学習の見通しをもち、学習計画を立てる。

登場人物の言動の意味を考えながら、内容を解釈し、読み取ったことをもとに群読譜を作成する。

群読の根拠となる場面の状況や登場人物の心情の読み取りについて班で交流し、群読譜を練り直す。

作成した群読譜をもとに群読した様子を動画に記録し、読み取った内容が伝わるかどうかを確認するとともに群読譜を再修正する。

本時  
中間鑑賞会を行い、解釈したことが群読に表れているかどうかを相互評価し、アドバイスシートをもとに群読譜を完成させる。

## ■ 本時のねらい

相互評価によるアドバイスをもとに群読譜を練り直す活動を通して、場面の状況や敦盛と直実の心情や言動の意味などについて考えを深めることができるようにする。

## ■ 主なICT活用場面



本時では相互評価によるアドバイスをもとに、どのように群読譜を練り直すかを考えさせた。その際、デジタルホワイトボードソフトを使い、自分の考えをもとに班で交流させた。そして、班で考えた内容をもとに、群読譜を練り直し、完成させた。最後に、本時のめあてに対しての振り返りをアンケートフォームに入力させ、クラスで交流した。

群読譜を練り直す活動において、録音や記述をデジタル化して即座に共有したことにより、内容の解釈を深めることにつながった。単元計画でデジタルとアナログを効果的に活用する場を検討することやねらいの達成を確認する振り返り活動が今後の課題である。

## ■ 活用したソフト等

デジタル教科書, 学習支援ソフト, デジタルホワイトボードソフト, アンケートフォーム

## ■ 単元名(題材名)

関数  $y=ax^2$

## ■ 学習の流れ

① 2乗に比例する関数について考える。

② 関数 $y=ax^2$ の性質を調べる。

③ 関数 $y=ax^2$ のグラフをかく。

④ 関数 $y=ax^2$ のグラフの特徴を捉える。

⑤ 関数 $y=ax^2$ の値の変化の特徴を捉え、変域を求める。

⑥ 変化の割合について理解し、変化の割合を求める。

⑦ 1次関数と2乗に比例する関数の特徴を比較し、考察し表現する。

⑧ 小単元で学習した知識がどの程度身に付いているかを自己評価する。

⑨ 具体的な事象の中の数量の関係を関数 $y=ax^2$ を用いて、考察し表現する。

⑩ 放物線と直線の交点に関する問題を解く。

⑪ いろいろな事象の中に、関数関係があることを理解する。

**本時**  
⑫ 関数のグラフを基にして具体的な事象を捉え考察し、表現する。

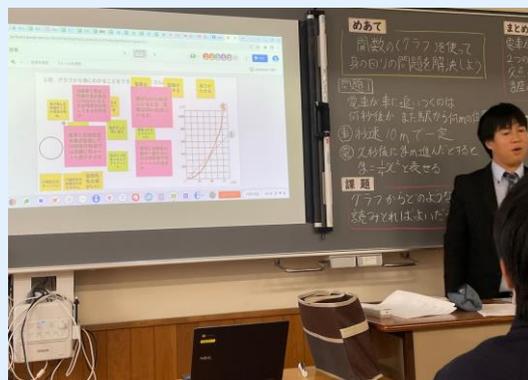
⑬ 小単元で学習したことがどの程度身に付いているかを自己評価する。

⑭ 単元で学習したことがどの程度身に付いているかを自己評価する。

## ■ 本時のねらい

電車が自動車にいつ、どこで追いつくかについて、電車と自動車が出発してからの時間と進んだ道のりの関係を表すグラフを読み取り考察することを通して、関数のグラフを基にして具体的な事象を捉え、表現できるようにする。

## ■ 主なICT活用場面



導入の場面においては、問題をデジタル教科書と動画を使って確認させ、問題解決に向け、生徒が立てた見通しを基にグラフの作成に取り組ませた。事前にドライブに保存したグラフの書き方を示した動画を、生徒の理解度に応じて活用を促すなど、個に応じた指導の充実に努めた。

まとめの場面においては、グラフから読み取れることをデジタルホワイトボードソフトを用いて意見交流を行い、それぞれの考えをより明確にするための工夫を行った。そして、振り返りの場面では、表計算ソフトに本時の学びや気づき等を入力させ、発表させた。表計算ソフトには毎時間授業の振り返りを入力させており、単元を通した自身の変容や成長を実感することができるようにしている。

成果としては、グラフの書き方を示した動画により「指導の個別化」が図られた。

課題としては、デジタルホワイトボードソフトを用いた協働学習の場面において、生徒が自らの考えを表現する際の視点が明確になっていなかったことが挙げられる。生徒の考えを焦点化させるための視点を教師が示すことにより、生徒が思考を整理する際のICTの効果的な活用につなげていくことができると考えられる。

## ■ 活用したソフト等

デジタル教科書, 学習支援ソフト, デジタルホワイトボードソフト, 表計算ソフト

## ■ 単元名(題材名)

旅行を予定しているMegan先生に、その土地ですべきことが伝わるポスターを作ろう。

(NEW CROWN ENGLISH SERIES2 Lesson4 Uluru)

## ■ 学習の流れ

- ①単元のゴールを知る。
- ②動詞(giveなど)+A+Bの特徴や決まりを理解する。

③日本とオーストラリアの季節の違いについて、会話の内容を理解し、Story Mappingでまとめた内容を相手に伝える。

④[動詞(call, makeなど)+A+B]の特徴や決まりを理解する。

⑤[動詞(call, makeなど)+A+B]の意味や働きの理解を基に、英文の内容を読み取り、Story Mappingでまとめた内容を相手に伝える。

⑥[動詞+A+B], mustとhave toの特徴や決まりを確認する。ALTの先生が、旅行先でしなければならないこと、しなくてよい(してはいけない)ことを英文で書く。

⑦ウルルについて書かれたコラムについて、段落ごとにおおまかな内容を聞き取り、Story Mappingを行う。

本 時

⑧ウルルについて書かれたコラムについて、段落ごとの概要と要点を把握し、Story Mappingを行う。コラムの内容を参考に、アナング族の心情を推測する。

⑨旅行を予定しているALTの先生に、その土地の文化を楽しむためにすべきことが伝わるポスターを作る。

## ■ 本時のねらい

ウルルのことや観光する際に気を付ける点等について書かれた記事について、ポイントとなる語句の記事から選んでStory Mappingを行うことを通して、記事の概要や要点を捉えることができるようにするとともに、アナング族の心情を推測し、観光客に対する思いを伝えることができるようにする。

## ■ 主なICT活用場面



生徒に、各自で選択した目標と、意識して取り組む活動をスプレッドシートに記入させ、学習の見通しをもたせた。その後、デジタルホワイトボードソフトを使って、Story Mappingを行い、本文の概要や要点を捉えさせた。キーワード同士を矢印で関連付けたり、カテゴリで分けたりさせ、情報を整理させた。

「読む」「書く」の複数の領域を組み合わせた授業で、目指す生徒の姿を具体化した上で指導ができた。個別に学習を進めているが、本時のねらいの達成に向けて、必要なことは全員に指導を行う必要もある。また、即時共有には他者参照できる利点があるが、参照することでできた雰囲気になってしまう可能性もある。参照した上で、自分の考えをしっかりと書かせることに注意したい。

## ■ 活用したソフト等

デジタル教科書, 学習支援ソフト, デジタルホワイトボードソフト, アンケートフォーム

## ■ 単元名(題材名)

「おくのほそ道」 芭蕉が俳句に込めた思いを考えよう

## ■ 学習の流れ

芭蕉とはどんな人だろうか。

現代と昔との「旅」を比べて違うことは何か。

芭蕉は何を見て、何を考えていたのだろうか。

本時

俳句にどんな思いが込められているか、まとめよう。

全ての俳句から芭蕉のものの見方や考え方をまとめよう。

## ■ 本時のねらい

自分が担当した俳句について、五感を使った表現や使用されている言葉などに着目して読むことを通して、芭蕉が俳句に込めた思いを捉えてまとめることができるようにする。

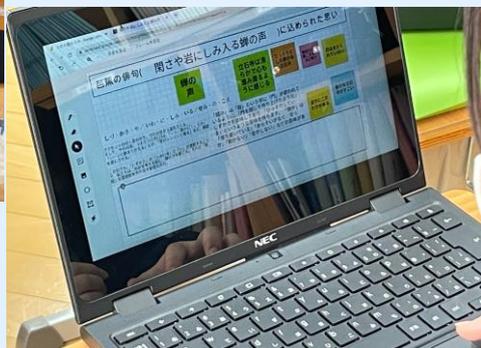
## ■ 主なICT活用場面



### 俳句に込められた思いを整理する活動でデジタル付箋を活用

自分の考えをまとめる場面において、デジタルホワイトボードソフトを活用した。

- ① 着目した表現や印象的な言葉等について調べ、分かったことをデジタル付箋に記述
- ② デジタル付箋にまとめた内容を根拠としながら、「芭蕉が俳句に込めた思い」について考えたことを班員に説明
- ③ 各自の説明内容について、班員から出された意見等を、色を変えた付箋に表示
- ④ ②・③の付箋を使って自分の考えをまとめる



## ■ 活用したソフト等

学習支援ソフト、デジタルホワイトボードソフト、アンケートフォーム

## ■ 単元名(題材名)

古典に学ぶ (MY徒然草～経験に学ぶ)

## ■ 本時のねらい

「徒然草」を下敷きにした創作文について、自らの経験と重ね合わせて書くことを通して、読み手に伝わる効果的な表現を考えながら文章を整えることができるようにする。

## ■ 主なICT活用の場面



### 情報整理をするためにデジタル付箋を活用

創作文の題材探しの場面で、考えた内容をデジタル付箋に入力した。その内容を整理し、創作文の構成を考えていった。

創作文はスライドソフトに入力、読み手に伝わる効果的な表現について、共有機能を活用するなどして、班内で交流した。

最後に、振り返りをアンケートフォームに入力した。



## ■ 活用したアプリ等

スライドソフト、デジタルホワイトボードソフト、アンケートフォーム

## ■ 単元名(題材名)

行書の特徴

## ■ 本時のねらい

漢字の行書について、各自で必要なときにデジタル教科書の動画を見ながら練習する活動を通して、行書の特徴を理解することができるようにする。

## ■ 主なICT活用の場面



### 行書の特徴を理解させるために、動画を繰り返し再生

行書の特徴である筆運びの速さと流れを理解するために、モニターに「日光」の動画を繰り返し再生して、いつでも見られるようにし、各自で練習を進めた。また、水書板に授業者が模範で字を書き、それも見ながら練習していた。

子どもの机の上は書写道具でいっぱいになり、個別にパソコンの画面を開けないが、提示用のモニターを使って動画を繰り返し再生することで、書く際のポイントについて十分に確認することができた。



## ■ 活用したソフト等

指導者用デジタル教科書

## ■ 単元名(題材名)

世界の諸地域 アジア州 注目する地球的課題:都市・居住問題

## ■ 学習の流れ



## ■ 本時のねらい

中国の経済発展について、諸資料から読み取った内容を整理・分析する活動を通して、その影響を多面的・多角的に考察し表現できるようにする。

## ■ 主なICT活用の場面



### 資料から読み取った内容を整理・分析する活動でデジタル付箋を活用



家庭での学習内容をフォームで回答させ、一人ひとりの考えを全体に共有しながら本時の課題を設定した。

デジタルホワイトボードソフトを活用して、中国における経済発展について、資料から読み取った情報をメリットとデメリットに整理・分析させた。その際、思考ツールと、色を容易に変えることのできるデジタル付箋を用いることで、生徒が短時間で整理・分析できるように工夫した。整理・分析した情報をもとに課題について考察し、班や全体で交流し、まとめを行った。

## ■ 活用したソフト等

学習支援ソフト、デジタルホワイトボードソフト、アンケートフォーム

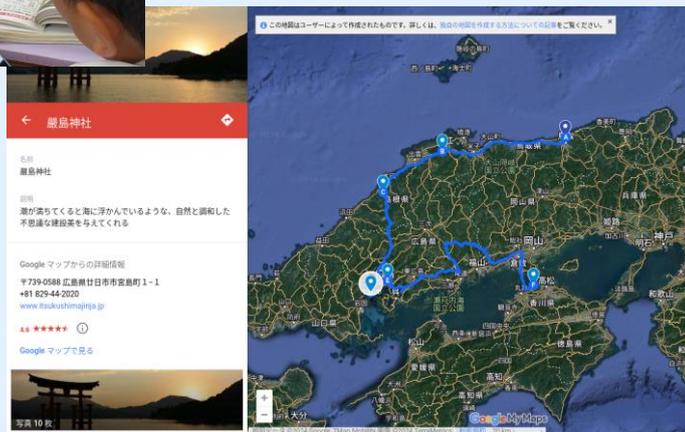
## ■単元名(題材名)

日本の諸地域「中国・四国地方」(交通や通信を中核とした考察の仕方)

## ■本時のねらい

過疎化や高齢化が進む山陰地方の社会変化について、交通網の発達と観光地や地域おこしなどに関連付けて、多面的・多角的に考察し、表現することができるようにする。

## ■主なICT活用の場面



はじめに、交通網の整備について、デジタル教科書のグラフやNHK for Schoolの動画を活用して、基礎的な知識の定着を図った。

次に、交通網の発達と観光地や地域おこしの関連について、デジタル教科書やインターネット検索を用いて調査させた。その後、調査したことを、プレゼンテーションソフトにまとめさせ、意見交流を行った。

単元のまとめでは、中国・四国地方の交通網を利用した旅のプランを地図ソフトで作成させる(予定)。その際、旅のプランについては、学習支援ソフトのコメント機能を活用することで、生徒による相互評価に取り組む。

単元を通して、アウトプットを意識した活動を継続して行うことで、情報活用能力を発揮する場面をつくれた。授業の質をさらに高めるには、生徒の学習状況に応じて、効果的なICT活用を位置付けた単元指導計画の改善・修正を図っていく必要がある。

## ■活用したソフト等

学習支援ソフト、動画、プレゼンテーションソフト、地図ソフト

## ■ 単元名(題材名)

世界の諸地域 アジア州

## ■ 本時のねらい

インドでICT産業が急速に発達した背景について、デジタル教科書を用いて複数の視点から調べたことを交流する活動を通して、多面的・多角的に考察することができるようにする。

## ■ 主なICT活用の場面



### アンケートフォームを導入と振り返りに、スライドを交流活動で活用

家庭で調べた内容(製品がどこで作られたかを撮影)をアンケートフォームに入力し、それをグラフ化して導入に活用した。その後、3つの視点(教育、人口、他地域との関係)に分かれ、課題解決に向け、デジタル教科書を用いて調べ学習を行った。

同じ視点で調べた生徒同士で、スライドソフトを用いて考えをまとめ、発表を行い、全体で共有し考察した。関心をもった発表(スライド)に対して、コメント機能を用いて意見を伝え合った。

最後に、アンケートフォームを利用して振り返りに取り組んだ。終末に映像資料を視聴することで、考察したことを検証し、理解を深めた。

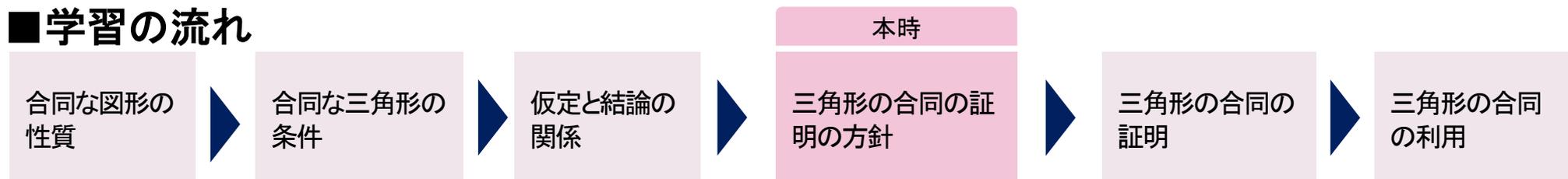
## ■ 活用したアプリ等

指導者用・学習者用デジタル教科書, 学習支援ソフト, スライドソフト, アンケートフォーム

## ■ 単元名(題材名)

図形の性質と合同 2節 三角形の合同と証明

## ■ 学習の流れ



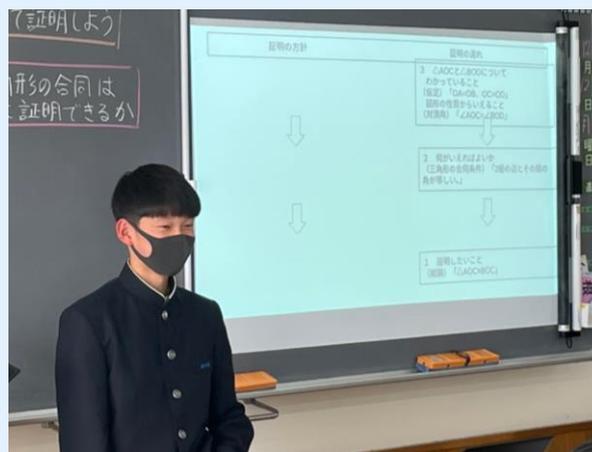
## ■ 本時のねらい

三角形の合同証明の流れについて、根拠を示しながら仮定から結論を導き出していく過程を図や合同条件と関連付けて考えることを通して、理解することができるようにする。

## ■ 主なICT活用場面



### 証明の流れをつかむためにスライドを活用



仮定から根拠を示しながら結論を導き出していく証明の流れをつかむために、スライドの文書枠に文を記入したり、移動させたりした。その後、スライドで並びかえた内容を班で意見交流し、クラス全体に向けて説明させた。

学習支援ソフトで、スライドや応用問題の解説・解答を共有することで、授業内容を家庭学習につなげた。

## ■ 活用したソフト等

スライドソフト, 学習支援ソフト

## ■ 単元名(題材名)

いろいろな1次方程式の解き方

## ■ 本時のねらい

文字を用いた式と1元1次方程式について、方程式の解き方の工夫を考えさせる活動を通して、基礎的な原理・法則などを理解させる。

## ■ 主なICT活用の場面



### アンケートフォームを確認問題の解答状況の把握に活用

かっこの付いた方程式の解き方の工夫を考えさせた後、アンケートフォームを使って確認問題に取り組みさせた。途中計算はノートに記述させ、アンケートフォームで正答を選択させた。その後、AIドリルを使って、関連する問題に取り組みさせた。

アンケートフォームで正答を入力させることにより、生徒の解答状況をリアルタイムで確認することができた。そのため、問題につまずいている生徒を把握でき、個別支援につなげることができた。

## ■ 活用したアプリ等

アンケートフォーム, AIドリル

## ■ 単元名(題材名)

天体の動きと地球の自転・公転

## ■ 学習の流れ

太陽の1日の動きを観察する。

観察記録から、太陽の一日の動き方の特徴を見いだす。

星の一日の動きを観察する。

本時

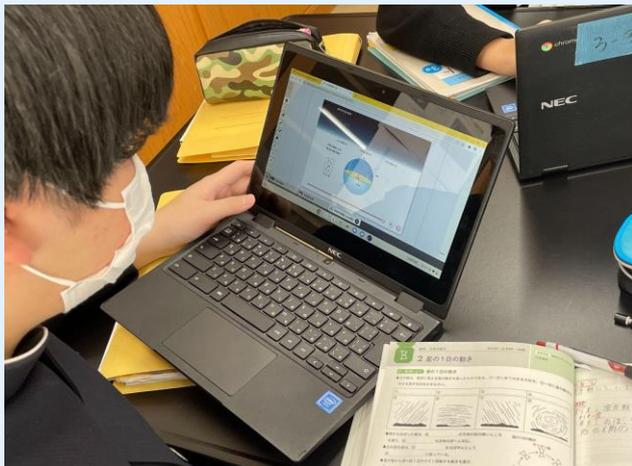
星の日周運動が地球の自転によって起こる相対的な動きによるものであることを理解する。

同じ時刻に見える星座の位置が変わるのは、地球の公転による見かけの動きであることを理解する。

## ■ 本時のねらい

星の日周運動が、地球の自転によって起こる相対的な動きによるものであることを理解する。

## ■ 主なICT活用の場面



### 星の日周運動の確認にデジタル教科書の動画を活用

天球上の星の動きを学習者用デジタル教科書の動画で確認させた。生徒個人のペースで何度も再生する姿が見られ、日周運動の理解を深めることができた。

その後、星の日周運動と地球の自転との関連について、班の考えをデジタルホワイトボードソフトに入力させ、学級全体で交流した。

天体シミュレーションソフトも導入時に活用した。



## ■ 活用したアプリ等

デジタル教科書, デジタルホワイトボードソフト, 天体シミュレーションソフト

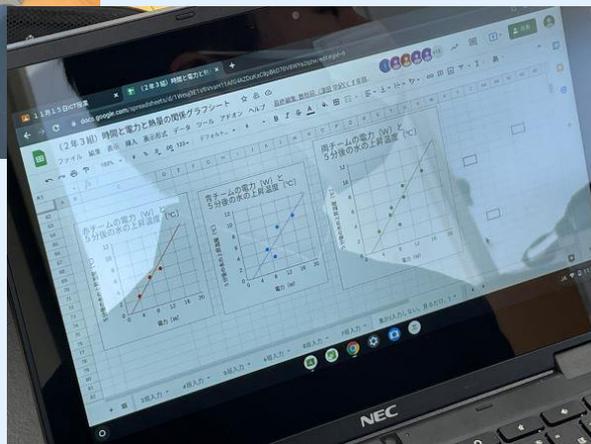
## ■ 単元名(題材名)

電流とそのエネルギー(電力と熱量の関係)

## ■ 本時のねらい

電流によって発生する熱量は、電流を流した時間や電力に比例することを、実験で得られたデータを分析・解釈することを通して見いださせる。

## ■ 主なICT活用場面



### 表計算ソフトを実験結果のグラフ作成に活用

デジタル教科書にある動画を活用して、実験の注意事項を確認した後、実験を行った。実験結果をノートに記録させた後、表計算ソフトの表に実験結果を入力してグラフを作成した。

表計算ソフトを活用することによって、短時間で正確なグラフを作成することができた。また、各班が入力した結果をまとめて表示できるグラフをつくっており、即時にクラス全体で共有することができた。

その後、共有したグラフから考察したことを各自でアンケートフォームに入力した。その内容をもとに、本時のまとめを行った。

## ■ 活用したアプリ等

デジタル教科書, 学習支援ソフト, 表計算ソフト, アンケートフォーム

## ■ 単元名(題材名)

デンマークの生徒に玖珠町の魅力を紹介しよう。(NEW CROWN 1 Lesson6 Discover Japan)

## ■ 学習の流れ

①単元のゴールを知る。  
②教科書の内容理解を通して、一般動詞の過去形の肯定文やきまりを理解する。  
③教科書の内容理解やListen, Speak&Writeを通して、一般動詞の過去形の肯定文の特徴やきまりを理解するとともに、聞いたり書いたりする。

### 本時

①教科書の内容理解を通して、一般動詞の過去形の疑問文や応答文の意味と使い方を知る。  
②デンマークの生徒からの”Did you~?”や”What did you~?”が使われているメールの内容を理解し、返事を書く。

①Read全体を読み、ケイトが訪れた場所やしたことなど、記事の概要を捉える。  
②誰がどこで何をしたのかがわかるように、記事の概要を表にまとめる。  
③ケイトのブログに、感想や質問などのコメントを書く。

一般動詞の過去形の特徴やきまりを意識し、デンマークの生徒への返事の英文を完成させる。

## ■ 本時のねらい

玖珠町での自分の体験やその時感じたことなどについて、”Did you~?”や”What did you~?”が用いられたデンマークの生徒からのメールに返事を書く活動を通して、一般動詞の過去形の特徴やきまりを理解するとともに、一般動詞の過去形を用いて英文を書く技能を身に付けることができるようにする。

## ■ 主なICT活用の場面

### ICTを活用した個に応じた指導

Long Rong time no see. What are you doing now? What bred do you like? bread me to. Me too. croissants. Another.I like croissnt. I don't like chocolate. I like normal croissnt. I am running now. croissants. together run? Why? Shall we run together? Why?	What's up? going to the bread shop now. I am going baker now. I am buying bread. I like melon bread and salted bread. What are you douing now? doing No,I dont. No, I I am eating melon bread. Oh,good!! I see.Oh, good!! Oh I don't like chocolate. but I like eating chocolate.eating I am eating melon bread and salted bread. Very delicious.
---	--



デジタル教科書の音声を用いて、個人のペースで音読練習を行わせることができたようにした。



アンケートフォームを用いて確認問題に取り組みさせることにより、生徒の学習状況を把握することができたようにした。

## ■ 活用したソフト等

デジタル教科書, デジタルホワイトボードソフト, アンケートフォーム

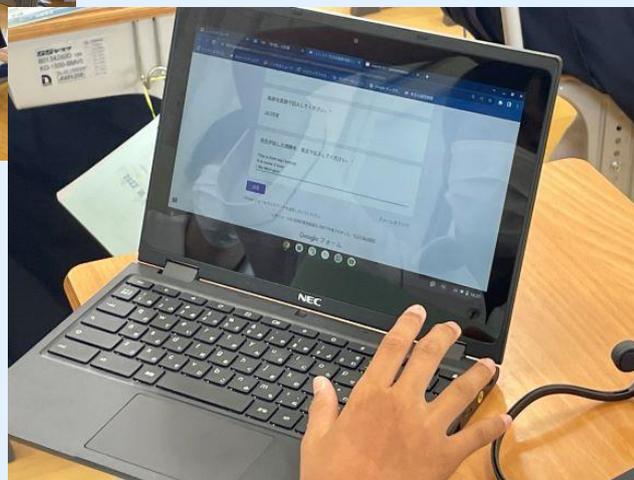
## ■ 単元名(題材名)

転校生に玖珠町を紹介しよう NEW CROWN English Series 1 Lesson 5「School Life in the U.S.A」

## ■ 本時のねらい

玖珠町の名所や行事について、文化や挨拶を紹介する文を引用しながら、紹介する文を書くことができるようにする。

## ■ 主なICT活用の場面



玖珠町の紹介をスライドで作成し、フォームで共有

学習者用デジタル教科書の本文の音声をイヤホンで聞きながら、2分間、音読練習を行った。

その後、玖珠町の名所(行事)の写真(4枚)が入ったスライドを生徒に配付し、その中から一つ選び、ペアで英文での紹介を行った。その際に、パソコンの写真を相手に示し、相手意識をもって伝えることができていた。

ペアで伝え合った英文については、フォームに打ち込んで、クラス全体で共有した。

## ■ 活用したソフト等

指導者用・学習者用デジタル教科書, スライドソフト, アンケートフォーム, 学習支援ソフト

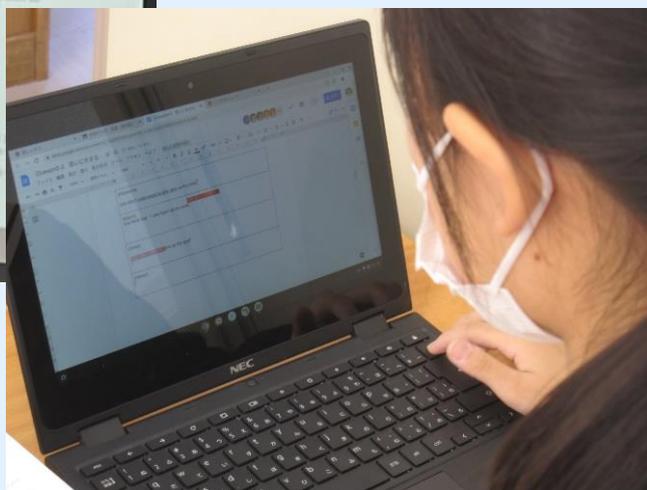
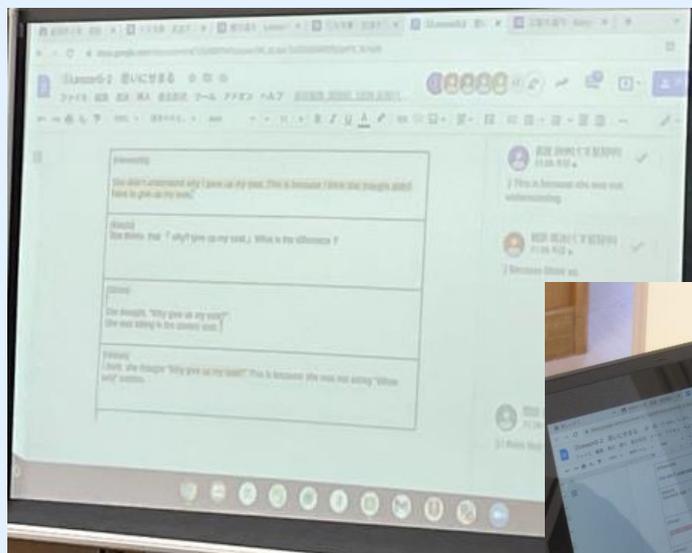
## ■ 単元名(題材名)

自分の尊敬する人を紹介しよう NEW CROWN English Series 3 Lesson 5 「I Have a Dream」

## ■ 本時のねらい

差別に立ち向かうローザさんの行動について、教科書本文を読んでその時の状況を知り、学級内で意見を交換することを通して、考えたことや感じたこと、その理由などを簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。

## ■ 主なICT活用の場面



### 意見交換のためにドキュメントのコメント機能を活用

アンケートフォームで単語と文法の復習のための練習問題に取り組み、学習者用デジタル教科書を活用して本文の音読を行った。

差別に立ち向かうローザさんの行動について、自分の思いや考えをドキュメントに英語で書き、書いた内容をペアで相談しながら表現内容の確認をした。

その後、ドキュメントのコメント機能を活用して、クラスメイトと意見交換した。

## ■ 活用したアプリ等

ドキュメント, 学習用デジタル教科書, 学習支援ソフト, アンケートフォーム

## ■ 単元名(題材名)

球技:ゴール型「バスケットボール」

## ■ 学習の流れ

①バスケットボールの特性・練習方法等を知る。  
②体験ゲームをすることで今もっている力を確認する。

①ハーフコートゲームの中で基本的技能を身に付ける。  
②正確な「ボール操作」がゲームの中でできるようになる。

①空間をつくり出す動きを理解する。  
②空間をつくり出す動きを理解し、動きにつなげることができる。

①空間をつくり出す動きができる。  
②空間をつくり出す動きをすることでコートを広く有効に使ったゲームができる。

本時

①ゲームで空いた空間に走り込む動きができるようになる。  
②空間をつくり出すだけでなく、空間に気づきそこに走り込むことでスムーズなゲームができるようになる。

## ■ 本時のねらい

バスケットボールのゲームにおいて、ボールを持っていないプレイヤーが空いた空間をつくり出す動きをすることにより、そのできた空間へ走り込む動きができるようにする。

## ■ 主なICT活用場面



### サイトに共有した情報を作戦や振り返りに活用する

授業用サイトに掲載した学習資料をもとに、自分やチームの課題に応じた練習方法を考えさせた。

その練習を実施した後、生徒に、練習の様子を記録した動画、収集した参考資料、ワークシートなどを授業用サイトに蓄積させ、その内容をもとに話し合い、次時の課題設定や振り返り活動を行った。

授業サイトを活用したことにより、生徒が主体的に学習に取り組む様子が見られた。

また、「空間へ走り込む動き」をイメージさせるために電子黒板を活用したことは、とても有効であった。

## ■ 活用したソフト等

学習支援ソフト, カメラ機能, スライドソフト, 授業用サイト, 電子黒板

## ■ 単元名(題材名)

球技 ソフトボール(ベースボール型)

## ■ 本時のねらい

ベースカバーやバックアップの基本的な動きについて、事例を参考にしながら、課題を見つけ、対応策を考えることを通して、自分やチームの課題に応じた練習や試合につなげさせる。

## ■ 主なICT活用場面



### 動画で課題を把握し、デジタル付箋を意見交流に活用

前時に撮影していた試合の動画を視聴し、セルフチェックに取り組んだ。その後、自分やチームの課題をデジタル付箋に書き出していった。



その課題を共有し、ベースカバーやバックアップの必要性について説明した。チームごとに課題を参考にして、次回の授業で意識して取り組むことを話し合った。

## ■ 活用したアプリ等

デジタルホワイトボードソフト、動画

## ■ 単元名(題材名)

材料と加工の技術によって、よりよい生活を実現させよう。

## ■ 学習の流れ

生活から問題を見だし、課題を設定する。

机のスペースを考慮した本立てを構想する。

けがきの方法を理解し材料にけがきを行う。

本時

両刃のこぎりを正しく使って材料を切断する。

かなやベルトサンダーを用いて部品の修正を行う。

適切な工具を用いて順序立てて組み立てる。

完成した本立てを相互評価し改善点を考える。

## ■ 本時のねらい

学習端末のカメラ機能を用いて、のこぎり引きの様子を互いに撮影し、確認し合う活動を通して、正しいのこぎり引きの方法を身に付けることができるようにする。

## ■ 主なICT活用場面



### 正しいのこぎり引きの方法を身に付けさせるために動画を活用



「のこぎり引きの方法」についての動画を視聴し、使い方等の確認を行った。その動画を学習支援ソフトに載せておき、生徒が自由に閲覧できるようにした。

また、カメラ機能を使って切断の様子を互いに撮影し、その動画を模範動画と比較して見ることにより、のこぎりの動かし方や自分の姿勢を確認させた。多くの生徒は、動画の確認後、のこぎり引きの姿勢が改善していた。

## ■ 活用したソフト等

指導者用デジタル教科書, 学習支援ソフト, カメラ機能

## ■ 単元名(題材名)

情報の技術でよりよい生活や社会の実現をめざそう

## ■ 本時のねらい

表計算ソフトを用いて問題を処理する活動を通して、コンピュータの便利さを実感させるとともに、情報のデジタル化や処理の自動化に関わる基礎的な技術の仕組みを理解させる。

## ■ 主なICT活用の場面



### 表計算ソフトの関数をプログラミングの導入に活用

プログラミングの導入として、表計算ソフトの関数機能を活用した。都道府県別統計表のデータを準備し、関数機能で合計値等を求めた。

自力で計算させた後に関数機能を使わせ、処理の自動化がとても便利であることに気付かせた。

その後、生活や社会で活用されている場面について、アンケートフォームに入力し意見共有を行った。その内容から、プログラミングの必要性を伝え、次回の学習につなげた。

## ■ 活用したアプリ等

表計算ソフト、アンケートフォーム

## ■ 題材名

消費者被害と消費者の自立

## ■ 学習の流れ

本時

悪質商法の手口を知り、  
対処法を考える。

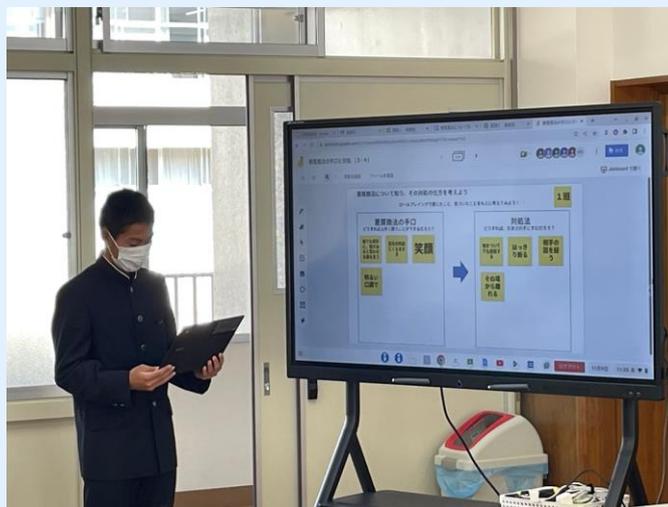
消費者トラブルの事例をも  
とに解決法を考える。

消費者トラブルの事例をも  
とに消費者の権利や責任  
について考える。

## ■ 本時のねらい

消費者被害の現状や悪質商法の手口を知り、キャッチセールスのロールプレイを通して、その対処の仕方がわかるようにする。

## ■ 主なICT活用場面



### 意見集約ツール、デジタル付箋を意見交流に活用

ロールプレイを通して、気付いたことを文書処理ソフト(ワークシート)にまとめた後、slidoという意見集約ツールを使って互いの意見を共有した。

その後、デジタル付箋を活用し、悪質商法の手口やその対処法について班の中で意見交流し、クラスに向けて、各班の意見を発表した。

最後に、振り返りとして、「今後、被害に遭わないための対処方法について学んだこと」をフォームに入力させ、クラス全体で共有した。

## ■ 活用したソフト等

文書処理ソフト、デジタルホワイトボードソフト(デジタル付箋)、slido(意見集約ツール)

## ■ 単元名(題材名)

日常食の調理(おいしさと調理)

## ■ 本時のねらい

「うま味」について、だしの試飲実験を行ったり「うま味」の成分を知ったりすることで、「うま味」そのものや相乗効果を体感し「うま味」について理解させる。

## ■ 主なICT活用の場面



### アンケートフォームを個の意見発表や意見集約に活用

だしの試飲実験をした後、意見・感想をアンケートフォームに入力し、グラフで意見集約を行った。各班や個人に発表させるよりも、短時間で意見集約ができた。

また、文書作成ソフトでワークシートを準備し、学習支援ソフトで生徒に配付した。生徒は板書の流れにそって文書作成ソフトに入力し、意見交流の場面ではアンケートフォームに入力した。

学習展開に合わせて、文書作成ソフトとアンケートフォームの使い分けをした。

## ■ 活用したアプリ等

学習支援アプリ, スライドソフト, 文書作成ソフト, アンケートフォーム

## ■ 単元名(題材名)

曲想やパートの役割を感じ取って歌唱表現を工夫しよう(混声合唱へのステップ)

## ■ 学習の流れ

曲の雰囲気をとらえパートの動きをつかむ

パート練習で音程をつかむ

音楽用語を確認し、強弱や速度の変化をつけて歌う

本時

歌詞の内容や曲想を感じ取りどんな風に歌いたいたいか考える

歌いたいイメージに近付くよう表現を工夫する

## ■ 本時のねらい

「あさがお」にふさわしい歌唱表現について、歌詞の内容や曲想を感じ取ったり、録音した自分たちの歌声から、どのように歌いたいのか考えたりする活動を通して、思いや意図をもつことができるようにする。

## ■ 主なICT活用場面



合唱に込める思いや意図を共有する場面で、デジタル付箋を活用



カメラ機能で自分たちの合唱の様子を撮影し、その動画を視聴させることによって、よりよい合唱にしようという意識をもたせた。

その後、生徒は歌詞の内容や曲想について感じたことをワークシートにまとめ、デジタル付箋に記入して共有した。

その内容から、クラスの思いをのせた合唱となるように、改善点について、生徒の意見を共有させた。

## ■ 活用したソフト等

カメラ機能, デジタルホワイトボードソフト(デジタル付箋)

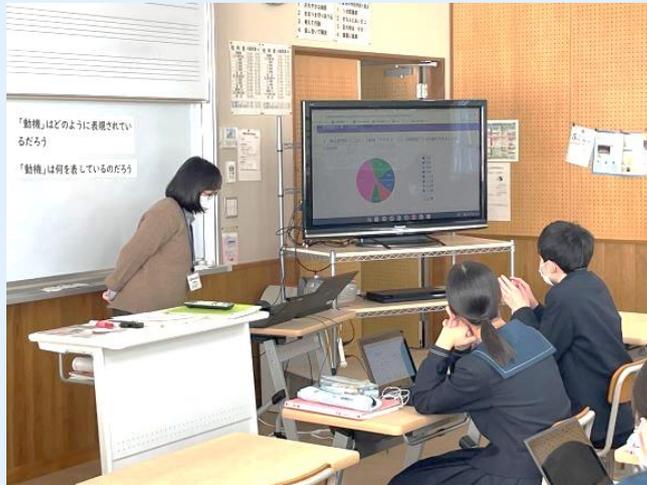
## ■ 単元名(題材名)

曲想と音楽の構造との関わりを理解して, その魅力を味わおう

## ■ 本時のねらい

作者の生涯や思いを知り, 「動機」の構成に注目することを通して, 「交響曲第5番」の曲想と音楽の構造との関わりについて理解させる。

## ■ 主なICT活用の場面



学習支援アプリで配付した音源を個別で鑑賞する場面で活用

交響曲第5番の1楽章を鑑賞し, 感じ取ったことや, この曲の魅力をアンケートフォームに記入し, クラスで共有した。



その後, 学習支援アプリで配付した音源を利用し, 曲の冒頭の部分に動機が何回出てくるか, どのような変化をしているかを個別に聴き, アンケートフォームに記入した。その際, 端末にイヤホンをつなぎ, 生徒のペースで繰り返し視聴することができたので, 動機と音楽の構造との関わりについて, 理解を深めることにつながった。

## ■ 活用したアプリ等

学習支援アプリ, アンケートフォーム

## ■ 単元名(題材名)

生活をいろいろ文様〈鑑賞・表現〉

## ■ 学習の流れ

生活の中から探した様々な文様(連続した文様)を持ち寄り鑑賞し、それぞれのよさや美しさを感じ取ろう。

本時

思いを込めて、連続文様の「お守りシール」をデザインしよう。

お守りシールを交換し、シールを鑑賞して気付いた形や色の工夫について伝え合おう。

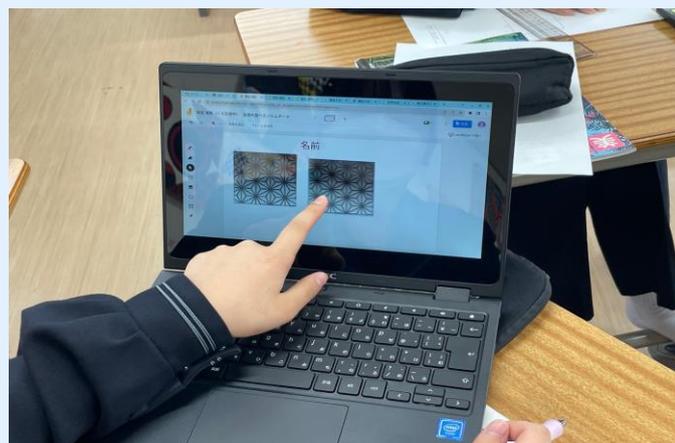
## ■ 本時のねらい

相手に渡す場面をイメージしながら、思いを込めた連続文様の「お守りシール」のデザインを考えることができるようにする。

## ■ 主なICT活用場面



文様の反復転写の作業を効率的に進めるために、デジタルホワイトボードソフトを活用



お守りシールを作成するために、ブラウザで連続文様の画像を検索し、意味や制作のポイントをつかんだ。

そして、渡す相手をイメージして、文様の原画を手書きで作成した。それをカメラアプリで撮影し、デジタルホワイトボードソフトに貼り付け、連続文様の反復転写の作業を行った。

デジタル画像を使うことにより、効率的に反復転写を行うことができた。

## ■ 活用したアプリ等

デジタルホワイトボードソフト, ブラウザソフト

## ■ 単元名(題材名)

北斎からゴッホへ(鑑賞)

## ■ 本時のねらい

浮世絵がゴッホの作品に与えた影響について、造形的な視点を基に2者の作品を比較鑑賞することを通して、根拠を持って説明できるとともに、見方や感じ方を深めることができるようにする。

## ■ 主なICT活用の場面



### アンケートフォームを意見の内容や傾向を共有する場面で活用

葛飾北斎の「神奈川沖浪裏」とゴッホの「星月夜」を比較鑑賞し、気付いたことや感じたことを形・色彩・構図の表し方の視点にそって、アンケートフォームに入力した。

また、年代別のゴッホの作品について、変化が大きかった項目やその具体的な内容について、文章でフォームに入力した。

最後に、北斎とゴッホの作品の半透明画像を重ねて提示し、その関係性について確認した。デジタルの利点を生かした活用であった。



## ■ 活用したアプリ等

学習支援アプリ, アンケートフォーム

## ■ 行事名

小学校6年生を対象とした体験入学

## ■ ねらい

来年度に新しい学校を創っていく仲間同士であるという自覚をもたせ、お互いの学校の良さを認め合い、ともに伸びようとする気持ちを育てる。

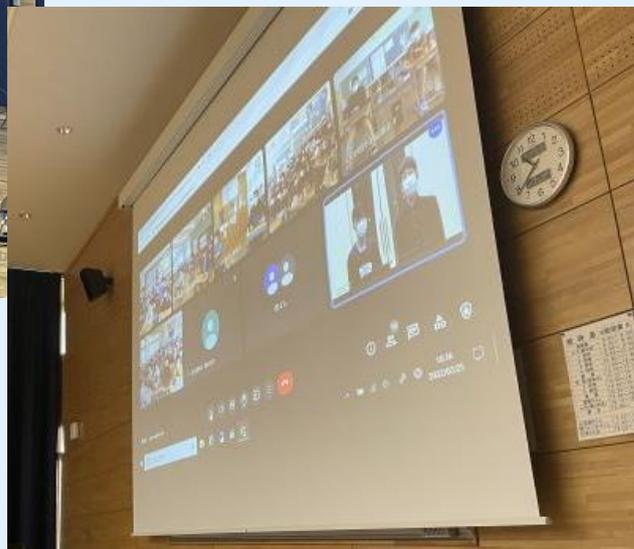
## ■ 主なICT活用の場面



### 生徒会の歓迎行事をオンラインで実施

延期となっていた小学校6年生の体験入学での生徒会の歓迎行事をオンラインで行った。小学校と双方向でのやり取りを行いながら、中学校での学習や生活のようす、自主的な生徒会活動などの紹介を行った。

スライドの活用や寸劇での紹介、クイズ形式等の参加型のやり取りなど、日常の学習活動で培ったスキルを生かすことができた。ICTを効果的に活用でき、小6の子どもたちにとって、とてもわかりやすい紹介となった。



## ■ 活用したソフト等

遠隔ソフト, スライドソフト, 学習支援ソフト

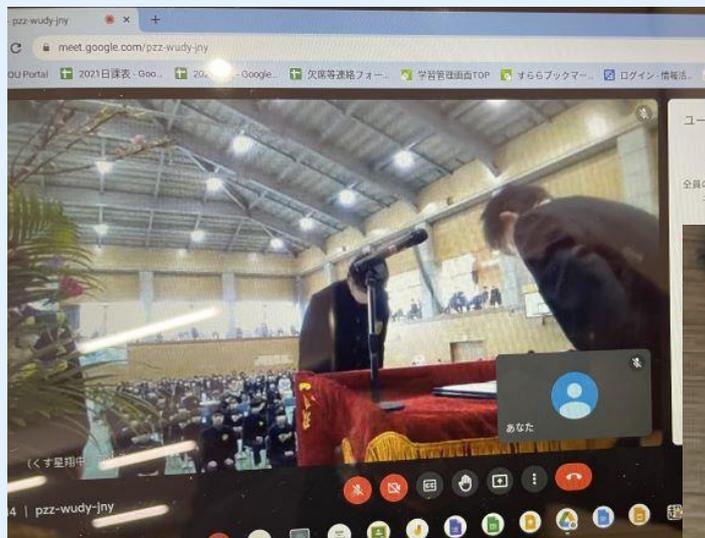
## ■ 行事名

卒業式

## ■ ねらい

生徒の学校生活に一つの転機を与え、生徒が相互に祝い合い励まし合って喜びを共にし、決意も新たに新しい生活への希望や意欲をもてるような動機付けを行い、社会集団などへの所属感を深めるとともに、厳かな機会を通して集団の場における規律、気品のある態度を育てる。

## ■ 主なICT活用の場面



遠隔ソフトを活用して卒業式や最後の学級活動のようすを中継



卒業式に直接参加できなかった卒業生や、後半からしか会場に入れない在校生が映像を通して卒業式に参加することができ、式場の雰囲気を共有し、これまでとこれからの節目とする決意をもたせることができた。

また、式後の最後のクラスルームも保護者の控えている各会場に中継し、生徒の決意表明やクラス全体のようすを見てもらうことができた。

## ■ 活用したソフト等

学習支援ソフト、遠隔ソフト、スライドソフト